

研究ステーション研究成果報告書

1. 研究ステーション名 **Social Informatics** (社会情報学) 研究ステーション
代表者名 太田敏澄

2. 設置期間
平成14年4月1日 ~ 平成19年3月31日

3. 研究成果
(1) 社会情報システム学シンポジウムの共催
本研究ステーションでは、表1に示すとおり、社会情報システム学シンポジウムを継続的に共催してきている。このシンポジウムでは、特別講演を行っており、表2に示すとおり、この領域での最先端の話題についての講演を行っている。また、日本社会情報学会、経営情報学会のメーリングリストを活用し、広く研究発表および参加者を募っており、学際的で横断的な多彩な研究発表を行っている。

なお、シンポジウム開催毎に刊行している学術講演論文集に掲載された論文の抄録は、独立行政法人科学技術振興機構のデータベース JDream II の JSTPlus に収録されている。

表1. 社会情報システム学シンポジウムの主催・共催団体

回 開催日時	主 催	共 催
第 11 回 2005.1.28	日本学術会議経済政策研究連絡委員会 社会情報システム学研究会	経営情報学会社会情報と情報組織化研究部会 日本社会情報学会環境情報研究部会 千葉商科大学大学院政策研究科リスクコミュニケーション研究会 <u>電気通信大学 Social Informatics (社会情報学) 研究ステーション</u>
第 12 回 2006.1.27	社会情報システム学研究会	経営情報学会社会情報と情報組織化研究部会 日本社会情報学会環境情報研究部会 <u>電気通信大学 Social Informatics (社会情報学) 研究ステーション</u>
第 13 回 2007.1.26	社会情報システム学研究会	経営情報学会社会情報と情報組織化研究部会 日本社会情報学会環境・教育・GIS 研究部会 <u>電気通信大学 Social Informatics (社会情報学) 研究ステーション</u>

表 2. 特別講演のテーマと講演者

回	特別講演テーマ	講演者
第 11 回	人口減少社会の社会基盤づくりをどうすすめるか	松谷明彦 (政策研究大学院大学教授)
第 12 回	ユビキタス時代の課税のあり方 －高速道路衛星課金などを事例として－	根本敏則 (一橋大学大学院商学研究科教授)
第 13 回	情報社会の複数性 (plurality of information societies) － e-Citizenship の概念から －	木村忠正 (東京大学大学院総合文化研究科・教養学部助教授)

(2) 国際的連携の推進

代表者の研究室では、Asia Pacific Telecommunity (APT) の Human Development Programme (HRD) での公募プロジェクトを 2002 年より実施しており、これを契機とした博士後期課程の留学生が在籍しているので、逐次この研究領域での国際的連携の拡大を図る予定である。

4. 研究成果の公表実績 (主催した研究会、研究成果の発信状況等)

社会情報学に関する最新の研究成果を糾合すべく、表 1 および表 2 に示した通り、第 11 回から第 13 回社会情報システム学シンポジウムを共催し、本研究ステーション構成員による研究発表を行うとともに、同シンポジウム毎に学術講演論文集を刊行した。

同学術講演論文集の目次は、<http://www.ohta.is.uec.ac.jp/ISS/>で公表しているとともに、社会情報学については、英語版で <http://www.ohta.is.uec.ac.jp/SI/>で発信している。

また、同学術講演論文集に掲載された論文の抄録は、上記 3 でも記述した通り、独立行政法人科学技術振興機構のデータベース JDream II の JSTPlus に収録されている。

なお、第 6 項に示す研究業績などの殆どは、社会情報システム学シンポジウムでの研究発表や討論を活用し、公表されている。

5. 外部資金の獲得状況

研究ステーション名による外部資金の獲得実績はないが、企業との共同研究の実績はあるので、逐次外部資金獲得の拡大を図りたいと考えている。

6. 代表的なピアレビュー論文発表、学会プレナリ、招待講演発表、特許出願、受賞等 代表的なピアレビュー論文発表

(1) ネットワーク構造がもたらす協調の頑健性と脆弱性, 石田芳文, 山本仁志, 岡田勇, 太田敏澄, コンピュータソフトウェア(日本ソフトウェア科学会論文誌), 24(1), 70-80, 2007/01.

<別紙 1 >

- (2) 環境配慮行動を促す環境教育プログラム開発のためのパスモデルの構築, 諏訪博彦, 山本仁志, 岡田勇, 太田敏澄, 日本社会情報学会誌, 18 (1), 59-70, 2006/03.
- (3) 消費者間オンライン取引における注目情報, 山本仁志, 石田和成, 太田敏澄, シミュレーション&ゲーミング (日本シミュレーション&ゲーミング学会論文誌, 15(2), 111-121, 2005/12.
- (4) リスク情報開示ゲームの提案—行政のリスク情報開示と住民の満足化に関するゲーム理論による分析, 梅原英一, 太田敏澄, 日本社会情報学会誌, 17 (2), 35-49, 2005/09.
- (5) Promotion of Cooperative Behavior in C2C market: Effect of Reputation Management System, Yamamoto, Hitoshi, Kazunari Ishida, and Toshizumi Ohta, in Agent-based Approaches in Economic and Social Complex Systems, 48-57, Springer-Verlag, 48-57, 2005.
- (6) Temptation and Contribution in C2C Transactions: Implications for Designing Reputation Management Systems, Hitoshi Yamamoto, Kazunari Ishida, Toshizumi Ohta, in Trusting Agents for Trusting Electronic Societies, Vol. 3577, 218-234, Springer-Verlag GmbH, 2005.
- (7) Modeling Reputation Management System on On-line C2C Market, Hitoshi Yamamoto, Kazunari Ishida, and Toshizumi Ohta, Computational and Mathematical Organization Theory, 10(2), 165-178, 2004.
- (8) ハッシュ関数を用いた公平な電子抽選, アグス・ファナル・シュクリ, 森田光, 太田敏澄, 齋藤泰一, 日本社会情報学会誌, 16(2), 31-29, 2004/09.
- (9) オンラインコミュニティにおけるソーシャル・ネットワーク分析のための肯定度モデル, 横山哲也, 山本仁志, 太田敏澄, 日本社会情報学会誌, 16(1), 77-88, 2004/03.
- (10) 消費者オンライン取引における評判管理システムの分析, 山本仁志, 石田和成, 太田敏澄, 経営情報学会誌, 12(3), 55-69, 2003/12.
- (11) 音楽ソフト市場における消費者選択の多様性に対する情報チャネル効果 : Winner-Take-All 現象への Agent-Based Approach, 山本仁志, 岡田勇, 小林伸睦, 太田敏澄, 経営情報学会誌, 11(2), 37-53, 2002/12.
- (12) An Approach for Organizing Knowledge According to Terminology and Representing It Visually, Kazunari Ishida and Toshizumi Ohta, IEEE Transactions on Systems, Man, and Cybernetics; Part C: Applications and Reviews, 32(4), 366-373, 2002/11.
(国際会議プロシーディングスなどで 2004 年以降の主要なもの)
- (1) Methodology for Improving Profitability of EMS Industry, Hagiya, Kazuaki and Toshizumi Ohta, Proceedings of the Fifth Asia Academy of Management, CD-ROM (5D-2, 22pages), 2006/12.
- (2) Sustainable Model of Printer Consumables, Imai, Takasuke and Toshizumi Ohta, Proceedings of the Seventh International Conference on EcoBalance, CD-ROM (C2-5, 4pages), 2006/11.
- (3) Effective Environment Education Program to Solve Social Dilemma, Suwa, Hirohiko, Hitoshi Yamamoto, Isamu Okada, and Toshizumi Ohta, Proceedings of the Twelfth Annual International Sustainable Development Research Conference 2006 Conference, CD-ROM (8pages), 2006/04.

<別紙 1 >

(4) Quality Analysis of Patent Parallel Corpus by the Scale, Okada, Isamu, Shinichiro Miyazawa, Kazunari Ishida, Nobuhiko Shimizu, and Toshizumi Ohta, Proceedings of Workshop Patent Translation, MT Summit X, 29-34, 2005/09.

(5) Mobile Language Learning: A Pilot Project on Language Style and Customization, Furuya, Chisato, Midori Kimura, and Toshizumi Ohta, Proceedings of the E-Learn 2004, 1876-1880, 2004/11.

(6) Using Trust Game to Investigate Information Disclosure by Companies and Government, Umehara, Eiichi and Toshizumi Ohta, Proceedings of the Pacific-Asia Conference on Information Systems (PACIS2004), 2233-2239, 2004/07.

(7) Trust Formation in a C2C Market: Effect of Reputation Management System, Yamamoto, Hitoshi, Kazunari Ishida, and Toshizumi Ohta, Proceedings of the Seventh International Workshop on Trust in Agent Societies (Proceedings of the Seventh International Workshop on Trust in Agent Societies), 126-136, 2004.

(8) Promotion of Cooperative Behavior in C2C market: Effect of Reputation Management System, Hitoshi Yamamoto, Kazunari Ishida, and Toshizumi Ohta, Proceedings of the 3rd International Workshop on Agent-based Approaches in Economic and Social Complex Systems (AESCS04) (Proceedings of the 3rd International Workshop on Agent-based Approaches in Economic and Social Complex Systems (AESCS04)), 97-104, 2004.

招待講演発表

(1) 社会情報システムの視角とモデル, 太田敏澄, プロジェクトマネジメント学会 2006 年度研究委員会フォーラム, 2006.

(2) Japanese Experience for Developing System in Coping with Disaster and Emergency Situation, Toshizumi Ohta, Asia Pacific Telecommunity, TELKOM Indonesia, 2006.

(3) Auto-Genesis Paradigm and e-Community, Toshizumi Ohta, Social Informatics Fair 2005, Kyoto, Japan, 2005.

(4) 産業のライフサイクルと情報システム, 太田敏澄, 日本学術会議経済政策研究連絡委員会第 17 回シンポジウム, 2004/07.

受賞等

梅原英一, 平成 18 年度日本社会情報学会論文奨励賞 (平成 18 年 9 月 12 日受賞)

論文表題「リスク情報開示ゲームの提案—行政のリスク情報開示と住民の満足に関するゲーム理論による分析—」

諏訪博彦, 平成 18 年度日本社会情報学会論文奨励賞 (平成 18 年 9 月 12 日受賞)

論文表題「環境配慮行動を促す環境教育プログラムの開発のためのパスモデルの構築」

以上